

令和6年度世界遺産学習数全国シェアミーティング
開催報告書

日程：令和7年1月30日（木）31日（金）

15:00～17:00（両日）

Google meet より配信

1 目的

世界遺産学習に関する発表や優れた実践の交流を通して、教員の研修や市民への啓発の機会とする。また、世界遺産学習に関わる多様な人・分野・団体を結びつけ、新たな出会いを生むことで、世界遺産学習の深化・発展を図る。

2 シェアミーティング概要

(1) 第1日目（参加者約70名）

【ルーム①】 奈良市立春日中学校 加藤 大貴 教諭

「奈良の魅力大発見！伝えよう奈良の魅力！」をテーマに、地域の魅力を発信する力を育む総合学習について発表した。

- ・地域の大安寺や明日香村の遺跡への訪問等をとおして、地域や奈良県の魅力について考えを深めていく授業を展開
- ・ICT コンテンツを活用しながら生徒一人ひとりが整理・分析を行っていく
- ・学習の最後には、個々で整理・分析した資料を基に校内ポスターセッションを行う

【ルーム①】 橋本市立高野口小学校 岡本 崇史 教諭

「わが町高野口魅力UP（地域活性化）プロジェクト」をテーマとして、持続可能な社会構築のための学びを学校、地域協働で作りに上げたことについて発表した。

- ・「ふるさと学習」について全学年でカリキュラムマネジメントを行い、育てたい子ども像を明確にし、ESD カレンダーを作成
- ・愛媛県八幡市立日土小学校や和歌山県立橋本高等学校と文化財や環境をテーマに交流
- ・すべての学年で地域をテーマとしたふるさと学習を展開し、学校カリキュラムを地域と共有しながら展開

【ルーム①】 学校法人白藤学園奈良女子高等学校 新宮 済 教諭

浅井 宥佳 生徒・辰己 菜花 生徒
藤原 摩耶 生徒・森 姫羽 生徒

「人とシカとの共生」をテーマに探究学習を行ない、生徒自身が作成した動画等の作成物を行政やインターネットに向けて発信したことについて発表した。取組の概要については教員が発表し、具体的な行動及び作成物については生徒が発表を行った。

- ・「総合的な探究の時間」を中心に、学校周辺のならまちの観光や防災について学びを進めた
- ・文化遺産を通じて持続可能な社会について学びを深め、生徒個々のテーマで行動化を行った
- ・奈良県知事や万博プロジェクト等に発信を行うことで自己有用感を高めることができた

【ルーム②】 屋久島町立一湊小学校 中島 樂 教諭

ウミガメ等の屋久島の環境をテーマとして、体験学習をとおした一人ひとりが課題に気づき考え行動できる環境教育の取組について発表した。

- ・ESD グローバルアドバイザーによる出前授業・職員研修
- ・ウミガメの減少を課題として、「ウミガメを一湊によびもどそうプロジェクト」を発足
- ・参加型アート、保護活動や学校間交流等をとおして、主体的に社会に参画しようとする態度を育てることができた

【ルーム②】 田辺市立三里小学校 湯上 亜希 教頭

ふるさと学習をとおして、子どもたちの地域への愛着をはぐくむことを目的とした実践について発表した。

- ・複式学級毎に、1・2年生がお茶、3・4年生が地場産業、5・6年生が熊野古道をテーマとして学びを深めた
- ・特に、5・6年生の熊野古道の取組では、児童がジュニア語り部として活動し、同地域の小学校と交流した
- ・パンフレットや動画を作成し、地域の魅力を発信する取組みを実施することで、子どもたちの郷土への愛着は深まりを見せている

【ルーム②】 姫路市立城北小学校 宮菌 貴至 主幹教諭・吉田 英里 教諭

姫路城の魅力を伝えることをテーマとし、探究的な学びを通して、児童各自が興味を持った内容を調べ、発表する活動を行った。

- ・姫路城の魅力を伝えるために、ボランティア団体の「しろまる会」と連携し、姫路城を知る活動を実施
- ・学んだ内容をスライドにまとめるために、整理、分析、再考のプロセスを通じて発表内容を深める取組みを実施

- ・辰市小学校との学校間交流を通じて「地域の宝物」の視点を得たことで、今後、姫路城以外の校区の「宝もの」を探し、より地域の学びを深める実践へ発展させたい

(2) 第2日目 (参加者約 50 名)

【ルーム①】 奈良市立ならやま小学校 前谷 将司 教諭

世界遺産等の地域の遺産からの学びをとおして、「防災」をテーマとして地域の持続性について考えを深めた取組について発表した

- ・能登半島地震をきっかけに自分たちの暮らす地域の防災について課題を設定
- ・野外活動や図工科等との横断的な学びをとおして、防災について多角的な学びを展開
- ・これからの奈良の世界遺産の在り方について、ディベート学習を行なうことで主体的に地域の持続性について考えることができた

【ルーム①】 平泉町立平泉中学校 高橋 夏美 教諭

平泉町における総合学習の中心である「平泉学」を軸とした中学校3年間のカリキュラム「知る・見つめ・広げる」について発表を行った。

- ・中学1年生では、中尊寺等を訪問し、探究的な調査活動を展開。年度安津には平泉検定を行った
- ・中学2年生では、過去からの学びをとおして「今を考える」ことをテーマに大文字焼き火床づくり等の活動を行った
- ・中学3年生では、未来への学びとして修学旅行先での平泉アピールや毛越寺でのガイド活動を行った

【ルーム①】 橿原市教育委員会 葛本 雅崇 指導主事

桜井市、明日香村、橿原市が協働して作成している世界遺産学習副読本について、副読本の内容、作成過程等について発表した。

- ・「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の世界遺産登録を目指す中で、世界遺産学習の充実を目指し、3市村協働で副読本を作成
- ・世界遺産についての知識を学ぶためだけで終わらず、探究的な学びの中で使用していける副読本としたい
- ・早ければ来年度から児童の手に届けられる。作って終わりではなく、今後も改訂を重ねながら、よりよい副読本としていきたい

【ルーム②】奈良市立朱雀小学校 本多 雄大 教諭

動画を活用することで、鹿と原始林の共生について考え、課題を発見する活動を通じて、子どもたちが今実践できる活動を考え、実践した発表を行った。

- ・NHKの「360度動画」を視聴し、原始林の保全と鹿の保護について、課題を把握する活動を実施した
- ・奈良教育大学の教授をゲストティーチャーとして招き、原始林について知る活動や、現地学習を実施し、自分たちができることを考えた
- ・動画を活用することで、より子どもたちが課題を身近に捉える活動が実践できたことから、様々なコンテンツの利活用が子どもたちの主体的な学びを促すツールとなることが分かる実践となった

【ルーム②】大田市立久屋小学校 中嶋 慎輔 教諭

世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」を題材として、大田市石見銀山課及び大成建設と協働してメタバースを活用した取組について発表した。

- ・デジタルツインメタバースを通じて、児童は石見銀山について、より興味関心を深めながら、探究のテーマを考えることができた
- ・探究的な学びを促すカリキュラム編成をすることで、児童は自ら計画を立てながら個人探究を実施し、その成果を学習発表会等では報告した
- ・デジタルツールを適宜活用することで、児童は、児童間の情報共有や教師からの評価を適宜、自身の探究に取り入れ、よりより探究的な学びへとつなげていた

【ルーム②】NHK 奈良放送局 北谷 康治 チーフカメラマン

VRゴーグルを活用して学習者の主体性と当事者性を高めることのできる世界遺産学習の取組について発表した。

- ・朱雀小学校において、児童が実際にVRゴーグルを使用することで、より臨場感のあるコンテンツ視聴を実施した
- ・この体験が、児童の興味関心の高まりにつながり、その後の学習により主体的に取り組むことにつながった
- ・実勢に使用した学級の教員からも、実際にVRゴーグルを使用した後の児童の感想について共有され、現地学習に近い効果を教室内で得られることが報告された

(3) まとめ

今年度より、これまで毎年開催していた世界遺産学習全国サミットを隔年とし、サミットを開催しない年度については、全国シェアミーティングと題した実践交流会を行うこととなりました。全国シェアミーティングとして初めての開催となる今年度は、完全オンラインで実施し、12の学校及び関係団体から発表をいただき、2日間で約120名の方々に参加いただくことができました。

今回のシェアミーティングでは、オンラインによる学校間交流、探究的な学びのためのカリキュラム構築、先端的な技術を活用した世界遺産学習の取組発表など、これまで全国各地で積み上げてきた世界遺産学習の実践を広く交流できたことは、意義深いことでした。

先生方や関係団体様の発表を聞かせていただき、地域や学校の特色を生かした世界遺産学習実践の在り方について知見を深めることができる充実した機会となったように感じています。どの取組においても、子どもたちが地域のヒト・モノ・コトから得た学びや先端的な技術等をいかして、これからの地域社会を担って行くための視座を高めているように感じました。これからの教育で大切なのは、「教師がどう教えるのか」ではなく、「子どもたちがどう学ぶのか」という、子どもが主語となる取組をいかに増やしていくかであると感じています。

世界遺産学習の今後としては、これまでのあゆみの中で大切にしてきたものを引き継いでいくとともに、これからの世界遺産学習には何が必要なのかをしっかりと見据えながら、力強く推し進めていき、子どもたちの豊かな学びと豊かな人生へとつなげ、ひいては持続可能な社会の形成に寄与していきたいと考えています。

世界遺産学習連絡協議会では、今後もESD・SDGsを包摂した世界遺産学習の取組を一層推進していくために、全国の自治体・学校・企業・団体との連携を密に図ってまいりたいと考えております。本シェアミーティングの開催にあたり、発表者のみなさまをはじめ、協議会会員のみなさまの多大なるご支援、ご協力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。